

高島及び佐賀関一帯におけるコケ植物・地衣類群落

調査地域は、豊後水道に突き出た佐賀関半島とその沖に浮かぶ高島を主に、半島西方の志生木地区や南方の一尺屋地区、さらに臼杵市佐志生地区を加えました。これには、豊後水道に面した半島の特に尾根部において岩や樹皮に着生する地衣類群落が発達傾向にあり、この実態把握と考察が目的の一つでした。得られた資料は、自然からのメッセージと受けとめています、解説にはむづかしさがあり今後の課題です。(スケールは1mm)

シダ類ヘビノネゴザを伴うホンモンジゴケケヘチマゴケ藓類群落

日鉱佐賀関工場に近接する崖面や地上に生育する群落です。ホンモンジゴケは土壌中の銅成分と関連があると図鑑他において指摘されています。



ヘビノネゴザホンモンジゴケ群落



ホンモンジゴケ



ケヘチマゴケ

ホンモンジゴケ群落内の薄い土壌を伴う岩上に樹枝状地衣ヒメジョウゴゴケモドキやヒメレンゲゴケが生育していました。一方、半島一帯において、樹皮や岩面で地衣類のまったく見られない場所が普通に見かけられます。



ホンモンジゴケヒメジョウゴゴケモドキ群落



ヒメジョウゴゴケモドキ



地衣類が見られない例

高島における樹皮着生地衣

高島先端の展望台付近で樹皮着生の固着地衣イワイボゴケ属 (Cresponea proximata=ラテン語名) とコモジゴケの2種を見つけました。高島では他に2箇所でコモジゴケを採集しただけで、尾根など樹皮着生の地衣類が好む環境でもみられませんでした。

地衣類の種名ですが、研究者の間では学名(ラテン語名)を使っています。これには、世界レベルで研究が進行中のことも関連しています。



固着地衣類群落



イワイボゴケ属



コモジゴケ

葉状地衣による群落

佐賀関町に隣接する臼杵市佐志生地区は平地が山間に伸びています。この奥まった丘陵斜面の神社では、樹皮や岩面に葉状地衣が良好に生育していました。

地衣類は大気汚染に弱いという性質があります。



樹皮(左)や岩上(右)の主な種はヒカゲウチキウメノキゴケ

海岸の岩上に良好な生育を保つ地衣類群落

樹枝状地衣のハマカラタチゴケとイソカラタチゴケによる群落です。葉状地衣ウチキクロボシゴケを伴う場合は、さらに安定した群落と考えられ、志生木の弁天鼻にも見られます。固着地衣もダイダイゴケの仲間ほか2~3種を伴っています。



海岸の崖に生育する良好な地衣類群落(弁天鼻)



ハマカラタチゴケ



イソカラタチゴケ